

# 横芝の碑

(その九十八)

## 昔の街道に

### 背を向けて建っている

#### 角田庚申山の庚申様

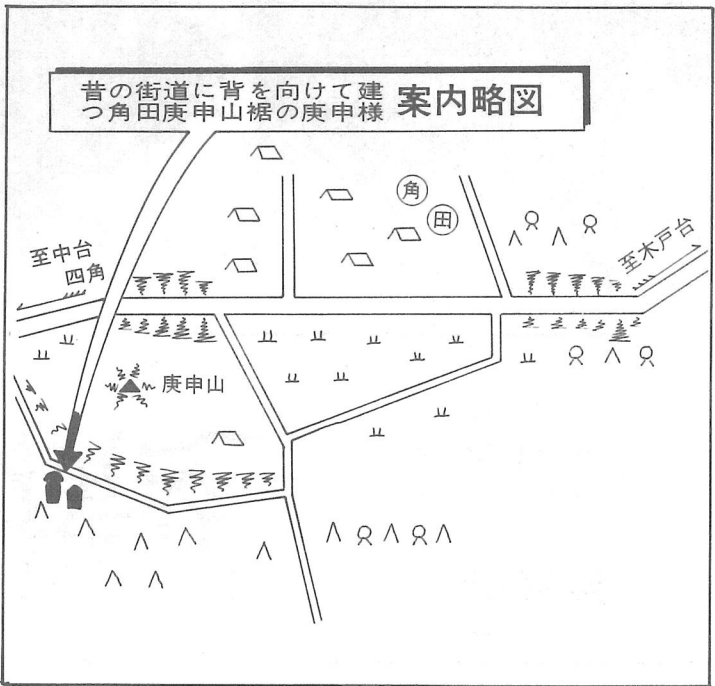
木戸台方面から、中台方面に向かった県道が下り坂になり、この坂を下りきった辺りの右側を中心に、角田(つのだ)の集落が展開しています。一旦下った坂が再び上り勾配になると、県道は切り通しの様な形になり、左右は高い丘陵地形になっています。その左側の少し奥の一番高くなっている所を付近の人々は、桜山、または庚申山と呼んでいて、その山裾の杉林の中に、二基の庚申様が建っています。

庚申山は、昔は桜の古木が見事な枝振りを誇り、花見のころは仁王様に次いで花見客で賑ったというのですが、今はすっかり畑になつていて、桜の木は全く見当りません。山の裾を一本の農道が杉林との間を区切るように続いていますが、庚申様は畑になつた庚申山と、農道を背負った形で杉林の中に建っているのです。二基の庚申様のうち、一基は天がいを付け、

青面金剛像に、寛政十二年(一八〇〇)庚申(かのえさる)正月七日、また別の一基には、庚申(こうしん)の太字に、安政七年(万延元年に改元の年、一八六〇)庚申(かのえさる)三月大吉日、と刻まれていて、三猿の両側の二匹が横向きであるのは、大総地域の庚申様に多く見られる姿です。尚二基とも建立者の名称は発見できませんでした。この庚申山と庚申様のことについて、種々ご指導とご協力下さった地元の石橋瑞夫さん(元教育委員長)は、「庚申山には、昔は桜の大木が枝振りを誇つていて、花見のころには格好の花見所となり、桜山と呼ばれる程であった。今山裾を通っている細路は、もつと山の上の方を通過して、その先は県道を越えて横芝と芝山の町境の県道に架かっている橋の傍に抜けている。仁王尊への昔の本街道で、仁王尊道の呼名がある。庚申様は、伊藤林平先生

の須徳碑(本紙一〇六号で紹介、現、伊藤績夫さん(元町長)宅邸内に建っている)と一緒に高所に建つていたが、道路が下に移つたので庚申様も下に移した。しかし傾斜等の関係で、地盤が平らな現在の場所に建てたのであるが、佛像や祠は、建っている向きが大切であると聞いているので、昔の向きそのままに建てた。その結果、道路を背にした形になっている。大要そんな風に話しておられました。尚、石橋さんのお話により「この近くからやはり仁王様に通ずる昔の街道がある」ということなので、ご案内をお願いします。その道端には天保十一年子九月、石橋次郎左衛門、と刻まれた道祖神らしい石の祠が建つていました。次郎左衛門という方は、石橋さんのご先祖で、この祠は昔からのものである。ということでした。芝山、松尾等との村界であり、一段と高い追分のよう

の須徳碑(本紙一〇六号で紹介、現、伊藤績夫さん(元町長)宅邸内に建っている)と一緒に高所に建つていたが、道路が下に移つたので庚申様も下に移した。しかし傾斜等の関係で、地盤が平らな現在の場所に建てたのであるが、佛像や祠は、建っている向きが大切であると聞いているので、昔の向きそのままに建てた。その結果、道路を背にした形になっている。大要そんな風に話しておられました。尚、石橋さんのお話により「この近くからやはり仁王様に通ずる昔の街道がある」ということなので、ご案内をお願いします。その道端には天保十一年子九月、石橋次郎左衛門、と刻まれた道祖神らしい石の祠が建つていました。次郎左衛門という方は、石橋さんのご先祖で、この祠は昔からのものである。ということでした。芝山、松尾等との村界であり、一段と高い追分のよう



になつていた筈の桜山と呼ばれる庚申山は、角田周辺としては極めて大事な尊宗の所として、悪疫退散、五穀豊穡の祈願祭典の場所であったのかも知れません。それについても、庚申様が庚申(かのえさる)の年毎に建立されておりますし、大総地方に多い三猿の両側の二匹が横を向いていること等からも庚申信仰によるもので、屋形四社神社境内の庚申様(本紙百七十四号で紹介したもので寛政十二年と万延元年建立)と同じように

きれいな丘陵の前に建つ庚申様

▲

庚申塚の名残りを止めるものの一つだと思います。

写真は、庚申山の山裾から農道越えに見た庚申様の後姿で、向かって右側が寛政十二年(伊能忠敬が蝦夷地(北海道)を実測した年)に、左側が安政七年(花の生涯の主人公、伊井直弼が桜田門外で暗殺され、安政が万延と改元された年)に建立されたものです。庚申山は、カメラのすぐ後から昔の桜山の思い出を語るように、奇麗な丘陵になつています。

横芝町文化財審議会委員  
小沢春光氏寄稿